

48 アルテフェスタ2008
ダンスポケット2008春
H20.4.27

49 アルテフェスタ2008 JOU&大樹
ーコンテンポラリーダンスへの思いー
ワークショップとショーイング
H20.6.1

50 平成20年度のこことからだのharmony
ポスター等デザイン
H20.11.9

51 声楽発表会 2nd
H20.7.28

52 ヴォルフガング・シュタング
”ダンス・ダイナミクス”ワークショップとトーク
H20.8.6

53 鳥取生協病院「七夕コンサート」
H20. 8.7, H21.7.21, H22.7.17

54 ピアノと歌のコンサート
～フツベルは知っている2008
H20.8.9

55 歌とダンスのワークショップ
～ミュージカル「オズの魔法使い」を題材に～
H20.8.19～20

56 芸術をかじってみませんか
(現コミュニティアート講座)
H20.9.2～10. 25

57

62 紙を漉いて家具を作る
パルプ・プロジェクト
H20.5～H20.12/H20.11.3, 12.7/H20.11.23～12.8

63

58 平成20年度のアートフォーラム用
ポスター等デザイン
H20.12.16, H21.1.21

59 「鳥の演劇祭」評価事業
H20.5～H21.3

60 こころとからだのharmony
—つながって つながって—
H20.11.4

61 平成20年度 鳥取オペラ協会公演
「北風と太陽」「金の斧・銀の斧」「羊飼いと狼」
H20.11.8

64 中四国のアートマネジメント実践者に学ぶ
レクチャーシリーズ「芸術文化とまちづくり」
H20.12.3, 12.18, H21.1.21

65

66 アートフォーラム2008 安田侃 講演会
「心を彫る街・美唄の試みから
—彫刻家 安田侃の世界—」
H20.12.16

67 アートフォーラム2009
鳥取の木工家具・これまでとこれから
—家具デザイナー白岡彪の視点—
H21.1.21～26, H21.1.25

68 アルテフェスタ2008
こどもミュージカル「ヘンゼルとグレーテル」
H21.2.20, H21.2.24

69 作曲工房「パパゲーノ」コレクションⅢ '09
「音の展覧会」
H21.3.7

事業形態

講演

上演

展示

制作・創作

調査・研究

ワークショップ

その他

担当者名

開催期日・期間： / 場所：

財源： / 主催・後援・共催・協力など：

参加者数：

地域別



アルテフェスタ2008
ダンスポケット2008春



天使がいた時 作・構成:佐分利育代 演・ウエズデーズキッズ, ADM



We are ... 作・演:ダンスコング



ここイーでスカしら? 作・田中悦子・ダンスコング
演・公納 峰 加藤 朋子 井上陽子



自分ライン2
一ひだりてに吹く風ー
作・演 三島 麻美



私の中の鳥 作・演 小山 裕加



開催期日: H20.4.27 / 会場: 鳥取市文化センター 多目的ホール

財源: 地域貢献支援事業

上演

佐分利育代



アルテフェスタ2008 J O U & 大樹 ーコンテンポラリーダンスへの思いーワークショップとショーイング

ワークショップ

佐分利育代

49



JOU

千葉県産。90年代を海外で生活しアメリカとマレーシアで舞踊活動をする。'99オハイオ大学ダンス科卒業、帰国し東京を拠点に国内外の舞台で活躍中。ダンスに関する様々な経験を、多くの人々と分かち合う、楽しい指導力は抜群。鳥取でのダンス公演3回。ワークショップは数知れず。

<http://odorujou.net>

大樹

'98ラバン・センター・ロンドンにてディプロマ取得後、同センター・トランジションズ・ダンスカンパニーに入団。99年香港に渡り、指導と作品創作に力を注ぐ。'01年SiWiC第5回プロフェッション・コリオグラファーに選出される。東京を拠点に、国内外での指導・公演で活躍。鳥取でのダンス歴は8公演。その間鳥取のダンサー、学生、幼児などを指導。説得力ある指導言語は、多くの示唆を持つ。

○ワークショップ:1時～4時 C51講義室

1:00-2:00 コンテンポラリーダンス入門

2:15-4:00 鳥大生といっしょにコンテンポラリーダンス

○ショーイングとトーク:5時～6時半頃 アゴラ

音楽担当:松本充明

開催期日:H20.6.1 /会場:鳥取大学共通教育棟C51講義室 中庭・アゴラ

財源:地域貢献支援事業

参加者数:52名 鳥取市、倉吉市、米子市(米子高校ダンス部14名 指導者3名) 西伯郡 兵庫県美方郡からの参加



平成20年度(2008年)のモダンダンスの発表会である「こころとからだのハーモニー」のポスター、チラシ、チケットのデザイン制作を行った。ポスター等には昨年度と同じ図柄を使ったが、ポスターに使用した二つの図柄をそれぞれ繰り返して並べることで、公演会の今年度のサブタイトル「つながって、つながって」をイメージさせるデザインとした。また昨年度と同じく、文字や図柄の色彩効果を一層カラフルにして見る人が楽しい感じを抱くように、またアイキャッチ能力の高いデザインを狙った。

■ハートとダンサーをイメージさせる二つの図柄は昨年度に使ったものと同じだが、図柄を繰り返して使う事で公演会のサブタイトルである「つながって、つながって」を連想させるデザインとした。図柄を並べたことで楽しい雰囲気は強まったデザインとなったが、二つの図柄が小さくなってしまった結果、図柄のザラリとしたテクスチャーの面白さは弱まってしまった。タイトル文字や日時の数字なども文字としてと同時に図柄としてとらえてデザインした点は同じだが、図柄や文字の色彩に一層の変化を付けてカラフルな色彩の効果を増加させた。



■ポスターと同様に昨年度と同じ図柄をチケットにも使ってはいるが、公演の実施年度が違うことが分かるようにチケットのデザインの細部は変更した。公演当日までの楽しい期待感が持続出来るようなデザインを狙った。チラシはポスターと同じデザインをA4に縮小して使った。



開催期日: H20.11.9 / 会場:当該事業のページを参照

財源:当該事業のページを参照/後援・共催など:当該事業のページを参照

参加者数:当該事業のページを参照





事業内容

鳥取大学の基礎科目である「合唱の楽しみ」、地域学部の講義「歌唱芸術表現」、地域学研究科の講義「芸術表現Ⅰ」の成果発表を、合同で行った。独唱から重唱、50人の大合唱など、編成も様々であり、演奏曲目も、イタリア古典歌曲、オペラアリアや重唱、日本歌曲、ポップスなど、バラエティに富んだ作品の発表となった。

成果

学生らにステージで演奏する機会を提供することで、講義時間以外にも練習を重ねる姿が見られるようになったなど、学生らの自主性、学びの姿勢を育成することができた。発表会では、講義を受講した出演者がお互いの演奏を鑑賞しあうことで、合唱、独唱、重唱など様々な声楽作品に触れるきっかけづくりとなった。さらに、「声楽アンサンブル研究会」と指導教授を含む3名の独唱は、よりレベルの高い演奏であり、講義受講生らの刺激となったようである。学生の出演が多かったため、観客はその友人らの学生、地域の人らで会場は満席となった。

開催期日：H20.7.28 / 会場：パレットとっとり2F市民交流ホール

財源：研究基盤経費 / 参加者数：約100名

この事業は、「声楽発表会3rd (H21.8.3)」「声楽発表会4th (H22.8.2)」と継続開催している



ヴォルフガング・シュタンゲ ダンス・ダイナミクス“ワークショップとトーク”



各ワークショップとも音楽をふんだんに使い、参加者の自由な動きを基本に、コミュニケーションを主体にしたダンスでの交流が繰り広げられた。

成果

ワークショップ1B、2では、子どもや、障害のある参加者が動きに引き込まれていく場面を体験し、リーダーが作り出す場の雰囲気(お互いを対等の者として尊重する)の大切さを学ぶ機会となった。また、「H子の全てを受け入れてくださるというのがよく分かり、私自身も心から解放されて楽しい時を持ちました」という障害者の母親の感想通り、どの参加者も新しい自分を発見したり、他の参加者の創造性に驚いたり、楽しい時を持った。5歳から60歳代まで、また障害者も5年生から24歳までの幅広い年齢の参加者が一緒に、自分なりに、グループの中で活動でき、ダンスの可能性を再確認した。

課題

島根県、兵庫県からの参加も5名あった。神戸からの大学生は、ヴォルフガング・シュタンゲに興味を持ち、ネットを搜して鳥取を見つけたとのことであったが、今回の参加者は、殆どが直接参加を呼びかけた人々であった。特別支援学校、障害者の施設、福祉団体への広報に対する反応はなかった。障害者も、家族の支援がある人のみの参加であった。開かれた学校、施設、団体、障害者の活動を支える仕組み等、問題はある。



ワークショップ1A:10時-12時(障害のない方とのワークショップ):30名

ワークショップ1B:14時-16時(障害のある方も加わっての合同ワークショップ):25名(障害者・子ども:7、大人:18)

ワークショップ2:18時-20時(ワークショップとトーク):28名(障害者・子ども:5、大人:20、見学:3)

開催期日:H20.8.6 /会場:鳥取市とりぎん文化会館リハーサル室

財源:平成20年度県民自ら行う人権学習支援補助金

参加者数:延べ83名

ワークショップ

佐分利育代



第1回(平成20年)は、鳥取生協病院9階の末期医療病棟の入院患者の方々を対象としてコンサートを行った。コンサートを行った会場は病棟の屋上に足湯広場があるスペースである。病棟にアップライトが設置してあったので前日リハーサルに鳥取男声合唱団員によって運搬し設置した。前日演奏家全員によるリハーサルを行い音響その他の点検を行なった。当日は末期病棟の入院患者のほか他の病棟の入院患者、関係者の口コミで集まった一般人など計50名ほどが鑑賞した。

第2回(平成21年)と第3回(平成22年)はオーボエの松田素子、ファゴットのマーティン・ヤーサー、ピアノの福田真衣のトリオのコンサートを、鳥取生協病院の1階のレインボーホールで実施した。

この3人の演奏家たちは、平成20年の第1回の七夕コンサートと翌日に日南町で開催された、「フッペルは知っている」で初めて共演し、第3回目のコンサートには「トリオ七夕」を結成して、病院コンサートを行った。

病院での「七夕コンサート」は、3回とも親しみやすい曲を選曲した結果非常に好評であった。入院患者の体調を考慮して1時間以内に収めるプログラムで実施した。また患者のプライバシーなどを考慮してマスコミ等への広報は行なわなかった。

芸術文化が地域の医療・福祉にどのような形で貢献できるかを考えていく材料として、試行的に行なっている事業である。

開催期日／会場 ①H20.8.7／鳥取生協病院9階テラス

②H21.7.21 ③H22.7.17／鳥取生協病院1階レインボーホール

財源：芸術文化センター／主催：芸術文化センター 鳥取生協病院

参加者数：3回ともそれぞれ約50名





事業内容

日南町日野上小学校でこれまでわが国に二台しか残存していないとされてきたドイツのフツペル製のピアノが確認された。これを記念して、昨年の夏にこのフツペル製のピアノが80年以上にわたって日野上小学校の教室で奏でてきた唱歌や童謡、当時の教師が出征の際に万感の思いを込めて作詞し同僚が作曲した「感激の征途」などを中心としたコンサートを開催したところ、県内外から大きな反響があり、マスコミにも取り上げられコンサート再演の声が多数寄せられたことから、今年度の開催に至った。

実行委員会に於いて検討し、フツペルのピアノを主題として平和コンサートを開催するという方向を決定し、昨年度の反省なども踏まえて下記のような内容で実施した。

成果

昨年度の反省を踏まえ、プログラムの内容を精選した結果、変化に富みながらも冗長にならないコンサートであったとの好評を受けた。特に、日野上小学校の教導が戦艦大和で出征する際に、子ども達への万感の思いを込めて作詞し、同僚の教員が作曲した「感激の征途」について、今回は「音楽劇」の形で上演を行なったために、戦時中のフツペルのエピソードと歴史に対する観客の理解度、共感が増したと思われる。

また、ブレーメンを中心にドイツで音楽活動を行っているオーボエ奏者の松田素子(鳥取大学卒業生)と、ファゴット奏者のマーティン・ヤーサーが演奏に加わり、日南町や鳥取市からの出演者との共演を通じて親しく交流したことや、鳥取市の合唱団が昨年に引き続き日南町に出向いて演奏して交流を深めたことなどは、コンサートを通じた国際交流、地域間交流という点で意義があったと思われる。



課題など

今後の課題としては、小中学生などの若い世代にフツペルピアノの歴史的意義への理解を深めるために、小・中学生たちがミュージカルや劇等に主体的に参加する形で、この文化的な遺産ともいえるフツペルピアノへの認識を深める方策を探るべきであること。また、より効果的な広報の戦略に基づいて観客数を増加・定着させていく必要があるということなどが挙げられる。



【プログラム】

第1部 「日野上小学校校歌」

日野上小学校児童 ピアノ:坪倉美智子

「島原の子守唄」

コールやまばと 指揮:青戸硯也

「学生時代」

ピアノ:木下忍

「孤島の友」

二重唱:小倉知子 関 力仁

ピアノ:仙田真帆

「インベンション第10番BWV781」(J.S.バッハ)

「貝殻節」

「上を向いて歩こう」

オーボエ:松田素子 ファゴット:マーティン・ヤーサー

「いざ立て戦人よ」

「長崎の鐘」

鳥取男声合唱団エルダーブラザーズ

指揮:新倉健 ピアノ:福田真衣

オーボエ:松田素子 ファゴット:マーティン・ヤーサー

第2部 ピアノソナタ第14番嬰ハ短調作品27-2

「月光」(ベートーヴェン)

エチュード作品10第12番 ハ短調

「革命」(ショパン)

ピアノ:山城裕子

「コンチェルト ニ長調」(ヴィヴァルディ)

ギター:木村秀樹

音楽劇「感激の征途」

出演:吉田章一 入澤珠美 安達秀樹

大柄瑞穂 山城裕子

挿入歌:「感激の征途」 独唱:吉田章一

ピアノ:山城裕子

「木兎」(作詞:三好達治 作曲:中田喜直)

「種」(作詞:寺山修司 作曲:信長清彦)

バリトン:西岡千秋 ピアノ:福田真衣

「ふるさと」(全員合唱)

指揮:西岡千秋

開催期日: H20.8.9 / 会場:日南町総合文化センター「さつきホール」

財源:鳥取大学地域貢献支援事業 / 主催:フツペルピアノコンサート実行委員会
共催:日南町・鳥取大学地域学部附属芸術文化センター・日南町総合文化センター
参加者数(内訳):入場者約200名、出演者約90名、スタッフ約10名、合計約300名





<活動の流れ>

8月19日(火)

10:30~12:15

前半 歌うことの基礎練習

後半 ダンスの基礎練習

13:15~15:00

ミュージカル「オズの魔法使い」の練習

(1)オープニング・フィナーレの練習

(2)キャストを決めグループに分かれ練習

8月20日(水)

10:30~12:15

ミュージカル「オズの魔法使い」の練習

(1)部分練習 (2)通し練習

13:15~15:00

(1)通し練習(リハーサル)

日南町総合文化センター「さつきホール」にて成果発表

講師:

< 歌 > 西岡千秋

小倉知子(大学院地域学研究科2年)

<ダンス> 三島麻美(大学院地域学研究科2年)



日南町は10年ほど前から町民手作りに
よるミュージカル(脚本、作曲オリジナル)
の公演を毎年行っており、ミュージカルが
町民に定着している土地柄である。

今回の講座はこの特色を生かし、目的は
次の通りとした。

(1)ミュージカルを見る側から参加する側へ
のきっかけ作り

(2)ミュージカル経験者は技術や能力を向上させること

参加者は、小学生を中心に中・高校生から一般の方まで幅広い年齢層の参加(約30名)があった。受講した子供たちは、講師と初対面にも関わらず歌・ダンスとも前向きに明るく熱心に受講していた。成果発表は保護者の方や町内の方に公開で、講師も加わり(西岡:オズの大王、小倉:西の魔女、三島:さる)物語をナレーションでつなぎ発表した。

講座に参加した受講生から「二日の練習でダンスや歌を覚えられました。最初は緊張していたけどがんばって(成果発表が)成功できました(2年生)」「二日間楽しかったです。来年もこういうのがあったら参加したいです。(4年生)」などの感想を聞くことができ、今後の活動への大きな励みとなったようである。

なお、講座の様子は、「中海テレビ放送」「ちゃんねる日南」で紹介された。

ワークショップ

西岡 千秋

開催期日: H20.8.19~20 / 会場: 日南町総合文化センター

財源: 日南町総合文化センター / 主催: 日南町総合文化センター

参加者数: 30名



芸文センターでは2006年度より、コミュニティー・アート講座に取り組み、本年は3年目である。学校教育を離れ日頃芸術を体験することの少ない社会人自身や、教育・福祉関係の職場で表現的な活動を援助しようとする指導者に、まず芸術のおもしろさに触れる機会を提供する。さらに希望者には、継続して講座を受講し、発表する達成感を味わい、芸術のおもしろさを丸ごと体験する機会を提供する。今回より、ダンス、コーラス、デザインに加えて、彫塑の講座を設けた。



「かたちをかじる」

粘土を素材に自由な作品をつくるカリキュラムを提供した。

「かたちをかじる」「まるかじり」の共通テーマは「テラコッタ作品を造ろう」である。道具や用具は講師側で用意した。

受講者は男性一名の応募があったが当日都合が悪くなり女性のみでの参加であった。鳥取市内ばかりではなく米子市や、日吉津村、倉吉市からの参加者があった。

それぞれの受講人数は「かたちをかじる」10人「まるかじり」9人である。

受講者の感想より

- ホットする時間。時間におわれている毎日で、自分の考えを形にする事ができる喜びを感じました
- わくわくでとても楽しかった。完成したときのうれしさは最高です。ご指導本当にありがとうございました。はじめての土いじりです。

担当：石谷 かじってみる講座 H20.9.2/★1
まるかじりコース H20.10.14/★1

「ハーモニーをかじる」

「楽しく歌って幸せに」を活動のテーマにした。「歌う」ための基礎的なことをわかりやすく楽しみながら学習し、詩のイメージをからだいっぱい感じて歌うことをねらいとした。

さらに、ハーモニーの楽しさを味わうことで、うたう楽しみ、みんなで一緒にうたう喜びを実感することも目的とした。

山田耕筰作曲「赤とんぼ」をうたう

岡野貞一作曲「紅葉」を二部合唱でうたう

木下牧子作曲「さびしいかしの木」をうたう

<受講者の声>

○講習会場、時間が変更し分かりづらかった。

○シェアリングで衣装を揃えていただいたので、気持ちが盛り上がり仲間意識もできた。

○講座受講生のリピーターの方もいて、初めての参加される方をリードしてくださっていい関係ができていた



担当：西岡 かじってみる講座 H20.9.16/★1
まるかじりコース H20.10.7/★2
H20.10.14・7/★1

それぞれの期日会場は各報告参照 ★1…わらべ館イベントホール ★2…県民文化会館リハーサル室

①かじってみる講座（9月の火曜） ②まるかじりコース（10月の火曜）

③シェアリング H20.10.25/県民文化会館リハーサル室





「いろをかじる」

講座参加者個人の作品制作を目標としたため、「まるかじり講座」に相当する部分は、講座参加者が各自で作品を完成させてシェアリング当日に持参するという形態した。

「かじってみる講座」では、色紙を切断するのにハサミを使わずに手でちぎって色彩構成をした。

道具の使用を避けて自由に手でちぎる事で、直観によって色彩を扱えるような場の設定をこころがけた結果、細かい形の作り出しから解放されたために、色彩の効果を十分に体験する機会の提供ができたと思う。

「シェアリング」では、とりぎん文化会館内の通路に設置されている当芸術文化センターの掲示板に作品を展示し、受講者に自分の作品の説明をしていただいた。この通路は、とりぎん文化会館内の各施設を訪れる方々が通行するのだが、講座とは無関係な人々の視線が注がれる中で行われた受講者の皆さんの作品説明自体が、完成して展示された作品以上に熱をおびていた事がとても印象深かった。

担当：平井 かじってみる講座 H20.9.9/★1

「うごきをかじる」

『かじってみる』体験講座は、前日キャンセルもあり、受講生は6人と大変少なかったが、大学院生、芸文センターの各教員の参加も得て、楽しいワークショップとなった。

体ほぐしの内容の次に、①呼吸と一緒に動くークジャクの羽を持ってー ②からだでオブジェをつくるー出会いと別れー の二つのことを行った。

2度目の参加者もあり、アンケートでは「ダンスが身近になった」「機会があったらもっとやってみたい」とし、今回の内容に対しては「テーマがあった方が創作しやすい」と、初めての参加者の「身体を使っているいろいろなことが出来ると思いました」「とてもリラックスできました」に比べ、ダンスの活動そのものへの具体的な見方を書いていた。

『まるかじり』継続講座では、体験講座で行った①と②を3人グループで展開し作品に構成した。使用した音楽(加古隆曲KENJI・永訣の朝)に因んで作品名を『KENJIとクジャク』とした。シェアリングでの発表の他、11月6日には受講者のうち日程の合う人が、ダンス公演「こころとからだのharmony」に出演した。

担当：佐分利 かじってみる講座 H20.9.30/★2
まるかじりコース H20.10.7/★2
H20.10.21/★1



アートフォーラム「安田侃公演会」のポスターおよびチラシのデザインを行った。平成19年度までは地域学部のシンボルマークを大胆にアレンジしたデザインを用いてきたが、平成20年度からは一般的な落ち着いたデザインに変更した。また、アートフォーラムの事業の日程の関係や講演者の希望によりデザインの細部の変更が必要になることが今までに有った経験から、基本デザインは守ることとして、細部はデザイナー(筆者)以外の関係者が必要に応じて変更しても良いこととした。

守るべき基本デザインは、

1. 画面上半分は講演者を表現する主たる写真で構成すること、
 2. タイトル文字やその他の文字情報と図や写真は、全て左右対称に見えるように配置すること、
- の2点のみとした。

■基本デザイン1. の画面上半分は講演者を表現する写真のみで構成した。講演者に依頼したポスター用の写真が横位置であったので、問題なく配置することができた。画面下半分は文字情報、その他の写真、図を左右対称に感じられるように配置して、一般的ではあるがまとまりのあるデザインを狙った。チラシはポスターをA4に縮小して使用した。

■白岡彪氏の講演会のチラシは、一版印刷としてモノクロームの効果を前面に出した。



開催期日： H20.12.16 及び H21.1.21 / 会場：当該事業のページを参照

財源：当該事業のページを参照 / 後援・共催など：当該事業のページを参照

参加者数：当該事業のページを参照



1. 評価作業の概要

2008年に初めて開催された「鳥の演劇祭」は、鳥取県、鳥取市、NPO法人「鳥の劇場」の3者が中心となり、地域のまちづくり団体、大学とも連携しながら企画・運営・実施された。文化事業の意義を検討するためにも、評価を行いたいという県、NPOの意向を受けて、鹿野町民全員アンケート等を含めて評価作業を行った。県、市、「鳥の劇場」の3者がそれぞれの立場で掲げた目標をもとに、議論を重ねて、後述する6点を評価の視点としてまとめた。評価にあたって実施した調査は以下のとおりである。

- ・演劇祭の公演を鑑賞した観客へのアンケート調査(配布数1,666 有効回答数359 回収率21.7%)
- ・演劇祭に招聘され作品上演をした出演者・スタッフへのアンケート調査(配布数48 回答数44)
- ・演劇祭のボランティア・スタッフへのアンケート調査およびインタビュー(アンケート配布数30 回答数21 インタビュー 10名)
- ・「鳥の劇場」が位置する鹿野町の住民全員アンケート(対象数3,824人 有効回答数1,820 回収率47.6%)
- ・その他関係者への聞き取り調査(26人)

2. 「鳥の演劇祭」実施概要

期間:2008年9月12日(金)～9月28日(日)
会場:鳥の劇場(旧鹿野幼稚園・旧鹿野小学校体育館)

「劇場」=旧鹿野小学校体育館
「スタジオ」=旧鹿野幼稚園遊戯室

主催:鳥の演劇祭実行委員会
助成:財団法人地域創造

- ・上演プログラム 6作品 16回公演 延べ観客数 1,580人
- ・ワークショップ 3事業 5回開催 延べ参加者数 68人

- ・シンポジウム 1事業 1回開催 参加者数55人
- ・とっとり体験プログラム 4回開催 延べ参加者数39人
- ・全プログラム 延べ参加者数 1,742人

3. 開催目標からみる演劇祭の評価

演劇祭の開催目標から、評価の観点を以下の6つにまとめ、アンケートやインタビューなど評価作業を行った。

①多様で優れた演劇作品に触れる機会をつくる

演劇祭のプログラム構成には多様性があったのか、また公演の内容は優れたものであったか。

②県内外の人の交流、著名アーティストと観客やボランティア・地域住民など、幅広い交流を生み出す

県外からの観客、観劇経験のない観客など、観客層の広がりはあったのか、県内外での認知度は高まったのか、どのような「交流」が創出され、観客・地域住民・ボランティア・演劇祭出演者はどのように受け止めたのか。

③行政、地域の芸術団体、ボランティアとの協働による文化事業を創出し、相互の関係を深める

行政やボランティアスタッフ、地元まちづくり団体等と劇団「鳥の劇場」の協働の実情はどうだったのか、それぞれの手応えはどうだったのか、また関係づくりの深化はあったのか。

④次代の鑑賞者や文化活動者のために、子どもも楽しめる舞台作品を提供する

大人も子どもも楽しめる作品

として上演された作品に、子どもの集客はあったのか、また、観客の受け止め方はどうだったのか。

⑤芸術文化による地域の活性化を図る

地域の活性化の成果を図るには、多様な視点が有ると思われるが、ここでは、鹿野町民が「演劇祭」をどの程度認知していたのか、また「演劇祭」開催をどのように受け止めていたのか、地域住民の演劇祭への参加(観客・運営)はどの程度あったのか、県外からの出演者や町外からのボランティアは鹿野町のことをどのように感じとめたか、という観点から検討する。

⑥演劇祭という楽しい雰囲気や芸術文化に親しむ

複数の観劇がされたのか、観劇以外のプログラムへの参加はあったのか、演劇祭をつうじ観客は多様な体験をしたのか。

以上による評価作業の結果詳細については、報告書にゆずる。

写真:上 鹿野町で、いんしゅう鹿野まちづくり協議会や鳥取大学教員を交えて、町民アンケートのないようについて議論
写真:下 評価作業へ向けて鳥取県庁でおこなった議論のメモ



調査期間: H20.5～H21.3 / 調査対象: 演劇祭参加者および鹿野町民など(上記参照)

後援・共催など: NPO法人鳥の劇場、鳥取県、鳥取市と連携して行った



5回目の「こことからだのharmony」。前身の、「モダンダンス・アピール展」を加えると、30回目のダンスコングとの仲間達との発表会。

サブタイトル「つながって つながって」は、ダンスでつながった多くの人々に感謝し、また新たな私たちの活動へとつなげていきたいとつけた。

プログラム

第1部

1. ジャンボ

ADM 5人

2. ゆめみましよう

鳥取大学附属幼稚園 36人

3. 「レッツダンス」号 しゅっぱ〜つ！！

鳥取大学附属特別支援学校

「レッツダンス」部 キッズ 14人

4. あの頃のように・・・

城北リズムダンス 7人

5. KENJIとクジャク

平成20年度コミュニティーアート講座

うごきをかじる受講生 10人

6. 星のともだち -ArashiとWatashi-

星のいり口 16人



第2部

1. The Scene

ダンスコング 7人

○ 1+1=1

作・演 井尻 雅代 佐分利育代

○ ヒトツブノスナ

作・演 田中 悦子 三島 麻美

○ ここイーでスカしら？

作 田中 悦子

演 加藤 朋子 公納 峰

井上 陽子 井尻 雅代

佐分利育代 三島 麻美

田中 悦子

2. アラバドマ

JOU&真+鳥取ダンス連

(鳥取大学ダンス部+ダンスコング)約50人

演出 JOU 松本 充明(=真)

振付 JOU

演奏 松本 充明 ライブエレクトロニクス

(写真撮影:テス・大阪)

アンケートより

- ・大人も子供も障害があってもなくてもみんなで楽しむ、次回はさらなる広がり求めます。
- ・障害者と健常者のコラボレーションが良い。明るくリズムに乗っている所が良いです。
- ・出演されているみなさんのからだの動きが見ている者の心を動かし観客ともharmonyを奏でることができていたように思います。
- ・心の中まで洗われた楽しいダンスでした。若い頃は親子でダンスをしていたので懐かしく思い出しました。
- ・皆自由に表現が出来て自分も勇気をもらえるようでした。
- ・ダンスの固定概念を打ち破り全体に良かった。
- ・抽象的でわかりにくかった。



開催期日：H20.11.4 / 会場：鳥取県民文化会館小ホール

鳥取市民文化祭参加

こことからだのharmony実行委員会

(ダンスコング、鳥取大学地域学部附属芸術文化センター、星のいり口)



上演

制作・創作

佐分利育代

平成20年度鳥取オペラ協会公演
 (協力・鳥取大学地域学部附属芸術文化センター)
 台本作曲松井和彦
 イソップオペラ3部作
 「北風と太陽」「金の斧・銀の斧」「羊飼いと狼」

上演

西岡 千秋

新倉 健

第6回鳥取県総合芸術文化祭事業として、イソップオペラ3部作「北風と太陽」「金の斧・銀の斧」「羊飼いと狼」(松井和彦作曲)を鳥取オペラ協会の制作により、演出を中村敬一氏、指揮を新倉健で上演した。

よく知られたイソップ物語を題材として取り上げたことで、親子で鑑賞された方が多く、広い年齢層にオペラを楽しんでいただけた。家族で楽しむことで、子どもたちにはより心の豊かな時間を実感できたのではないだろうか。

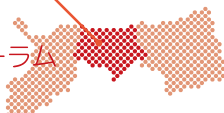
また、舞台鑑賞のきっかけにもなり、目の前で繰り上げられるオペラの醍醐味を知り、生演奏の素晴らしさを体験することができたと思う。

センターの教員がプロデュース、指揮、演奏・演技指導、出演などの支援を行った。



開催期日: H20.11.8 / 会場: 倉吉未来中心小ホール

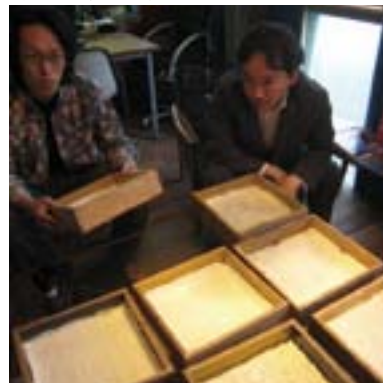
財源: 鳥取県文化団体連合会・エネルギー文化スポーツ財団 他
 主催: 鳥取オペラ協会・鳥取県文化団体連合会 後援: 鳥取県・NPO法人アザレア文化フォーラム
 参加者数: 約600名(2回公演)





工作社での打ち合わせ

5月の試作の結果



事業内容

米子市出身で、国際的なデザイン展などでも活躍する建築家河田将吾氏を招き、「紙を漉いて家具を作る」をキーコンセプトに、椅子とテーブルを作ることを目指し作品制作を行なった。中心市街地の回遊性を高めるイベント「トトリノスメ」の参加イベントとして、制作プロセスを川端商店街店舗の空きスペースを利用して展示した。

①作品制作「パルプ・プロジェクト」

作品制作は、河田氏のほか、鳥取市内でカフェなどの店舗プロデュースや家具製作に携わる「工作社」の本間公氏、紙を漉く技術に関して青谷町「中原商店」の中原寛次氏、有機物の乾燥について智頭町(株)サカモトの坂本晴信氏、プロジェクトのコンセプトや展示の考え方・方法などについて県立博物館三浦努氏および鳥取のアートイベントグループ「フカヒレ」の赤井あずみ氏など、いずれも若手で活躍する専門家と議論を重ねながら進めた。プロセス展示期間までに、計5回の作品制作を試行し、うち2回は、川端商店街のなかで公開デモンストレーションとして実施し、にぎわいづくりの一助とした。

試作は、河田氏のデザインをもとに、本間氏が木製の型枠を製作、中原氏の指導と協力を得てパルプ原料を型枠に流し込み、坂本氏の協力で木材乾燥庫にて乾燥、その後型枠をはずすという作業を繰り返した。

参加者は、和紙漉きや木材乾燥といった、具体的技術的な提案のみならず、全体のコンセプトに参加メンバー全員が関わりながら進め、地場産業、現代アート、地域おこしといったテーマが緩やかにつながる独特のプロジェクト構成員となった。

また、後半からは、鳥取大学学生有志もプロジェクトの推進と運営に参加し、自らの手で仕事を創り出す鳥取市内の若者たちと交流することができた。



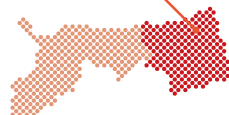
11月3日川端商店街でのデモンストレーション



パルプ展看板

作品制作 H20.5～12/中原商店工房(鳥取市青谷町)・工作社(鳥取市)

ワークショップ H20.11.3 12.7 / 場所:鳥取市川端商店街路上
作品展示「パルプ展」H20.11.23～12.8/ 場所:noppo(鳥取市川端)
オープニングイベント H20.11.23



中原商店での7月の試作



7月の試作の結果



10月4本足テーブルの試作



②「トットリノススメ」と「パルプロ展 ～紙を漉いて家具を作る」

「トットリノススメ」は、中心市街地で同時多発に開催する文化的なイベントを緩やかにネットワークし、マチナカの魅力を再発見することを目的に開催された。比較的若い世代の経営者によるカフェや雑貨店、またそれらの経営者が発起人となった古本・雑貨市などの協働企画として、パルプ・プロジェクトもデモンストレーションと展示を行った。「トットリノススメ」全体の企画期実施期間は、11月3日から12月7日までで、全体で17の大小のイベントが開催された。「パルプロ展」は、11月23日から12月7日まで、川端のバーnoppo2階の空きスペースを会場にして開催した。木造店舗の2階部分の使われていない空

き部屋を、展示空間として河田氏と本間氏のアイデアをもとに、学生も交えて改装した。「パルプロ展」オープニングには、河田氏と本間氏のトークイベント「自ら仕事を創り出す～ゆるやかな時代の僕らの歩き方」を開催した。

成 果

鳥取で家具、和紙、林業、飲食店経営などに携わる30代前半の若者と、鳥取出身で東京の現代美術やデザインの最前線で活躍するアーティストが交流しながら、専門学芸員のアドバイスを得て、鳥取ならではの作品制作とプロセスを創出できた。

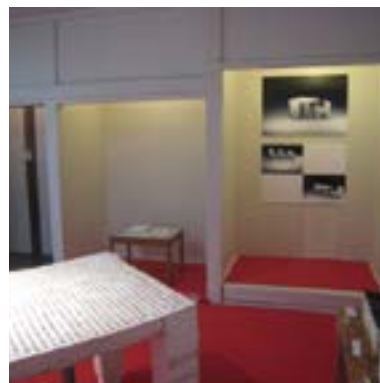
制作過程の様々な議論から、マチナカを散策することで魅力を再発見するしかけとして、期間限定の散発多数のイベントが誕生して、「トットリノススメ」と命名され、本事業もそのいっかんとして、開催できた。特に、20代から30代の若い人たちが注目する事業となり、鳥取の中心市街地の魅力を見つめ直す機会となった。



オープニングのトークイベント



展示の様子



事業内容

芸術文化のもつ魅力や特性を、地域づくりやコミュニティの新しい関係づくり活かしていく多彩な実践を、とくに劇場・美術館など文化施設の運営・事業を通じ学ぶ機会を設けた。施設運営や事業企画ということだけではなく、アートによって醸成されつつある地域社会像を、各地の事例から探ることを大きなテーマとして以下の講座を開催した。



第1回「新しい公共を生み出す呼吸するお寺 應典院の挑戦」
講師 秋田光彦氏 浄土宗大蓮寺住職・應典院代表



1997年に浄土宗大蓮寺の塔頭寺院として再建された應典院は、お葬式をしないお寺として知られ、劇場ホールや研修室、オープンスペースを持つ、ユニークな文化施設として広く市民に親しまれている。お寺の活動の原点は「学び・癒し・楽しみ」にあるとして、教育・福祉・芸術文化など人間らしく生きていく上でなくてはならない活動の実践を、NPOやアーティストと協力し合って、様々に取り組んでいる。お寺の文化活動を通じ、ニート、フリーターといった若者の居場所、そして就労の場を創り出し、地域の活動団体との連携による事業も行われ、さらに活動の輪が広がっている。歴史と伝統を持つお寺を地域コミュニティの中心として再生していこうという試みが紹介された。

講演



第2回「地域づくりを担う芸術文化拠点」
講師 松本茂章氏 県立高知女子大教授



官民、あるいは芸術家と市民、また企業やNPOなど、多様なアクターの協働により運営される文化施設を通して、新しい地域経営の担い手が育ち、21世紀の市民社会構築に貢献しつつある。官民パートナーシップによる地域経営（地域ガバナンス）という観点から、各地のユニークな芸術文化拠点が、リアルな現場の声も交えながら紹介された。とくに、廃校など使われなくなった公共施設をNPO法人やアーティストが自発的に活用する中から、行政の理解と協力が進み、ユニークな活動が展開されていることが提示された。

(写真提供：本人)



第3回「打つてでる美術館の実践」高知県立美術館の活動から
講師 藤田直義氏 高知県立美術館館長

本格的なホール機能を持つ高知県立美術館は、質の高い舞台公演を製作・提供することでも全国的に高く評価されている。また、アートで地域を元気にすることを目的に、美術館を出て実施する「休・廃校活性化プロジェクト」が開始されている。民間銀行出身という経歴の館長は、自主映画上映団体としての活動歴も長く、そこで培ったノウハウ、人間関係が、現在の事業企画や施設運営に活かされている。国際的にも知られる前衛的な舞台芸術事業の開催により、最近では、国際舞台見本市などからの招聘を受け、高知県にありながら、事業を通じ全国発信する公立文化施設となっている様子がうかがえた。また事業費縮小の中、事業内容の差別化を図りながら、一方で他地域の文化施設との連携をすすめている館長の工夫と知恵に学ぶところが大きかった。



成 果

- ・全国的にもユニークな活動内容で知られる文化施設について、実情を知ることができた。とくに、芸術文化施設の事業企画・管理運営については、自治体だけではなく、アートNPO、民間企業、宗教法人など、多様な主体が参画・牽引する時代がやってくるということが、参加者にも理解された。
- ・継続的な開催により、鳥取の自治体関係者、NPO法人、文化活動者にとって、内容を深めることが出来た。
- ・また、各回講演後の質疑応答・交流会への参加も活発で、地域におけるアートマネジメントの意義を知ると同時に、地域間での文化施設運営者、NPO法人、芸術文化活動者の相互交流を深めることができた。
- ・和室空間（「高砂屋」）を利用することで、親密かつゆったりした雰囲気 of 講座となり、参加者には好評であった。



開催期日：①H20.12.3 ②H20.12.18 ③H21.1.21／場所：城下町とっとり交流館「高砂屋」

財源：鳥取大学大学開放事業／後援：アートマネジメント学会山陰部会

参加者数（内訳）：①63名 ②25名 ③34名





事業内容

大理石の産地で知られるイタリアのピエトラサンタにアトリエを構え、大理石とブロンズによる彫刻の創作を続けている安田侃氏を招いて講演会を開いた。以前、現代美術作家藤本由起夫氏の展示と講演会を企画実施した高砂屋2階で実施した。

ゆるやかな曲線と量感のある形態の安田氏の彫刻作品は世界各国に設置され、環境と調和した空間を作り出し、好評を博している。氏の故郷である、北海道美唄市の廃校校舎内外に安田氏の彫刻が設置された「アルテピアッツァ美唄」は地域再生のモデルとして高く評価されている。彫刻作品と環境、地域における芸術の役割について「心を彫る彫刻家」として著名な安田氏にスライド、ビデオを交えながら講演してもらった。



成 果

アートプラザが地域学部の耐震工事に伴い使用できなかったが、会場を高砂屋(城下町とっとり交流館)の和室に設定し、広く地域住民の参加と文化交流の場として活用し、地域の活性化につなげた。

定員を超える入場者が入り、熱心に耳を傾けた。静かなそして時々ユーモアのある語り口の中に彫刻に対する真摯な言葉がちりばめられ大変意義のある講演会になった。講演後しばらくの間、市内各所でこの講演会について話題になっていた。その後彫刻の調査でアルテピアッツァ美唄を訪れた。スタジオアルテではイタリアから持って来た石彫の道具一式が数十人分揃っており、安田氏が行なう「心を彫る授業」では全国から受講生が訪れるとのことであった。



開催期日: H20.12.16 / 会場: 高砂屋(城下町とっとり交流館)

財源: 地域貢献事業

参加者数: 65名



「心を彫る街・美唄の試みから」彫刻家安田侃の世界

講演

石谷 孝二
平井 朋子
五島 覚



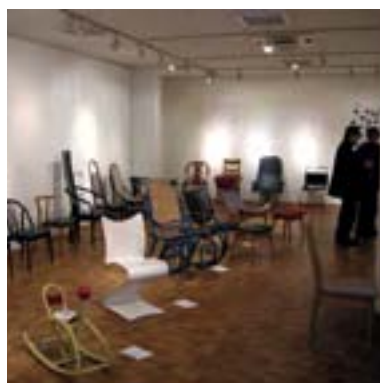
事業内容

鳥取の木工家具は民藝家具の発祥の地、ウイーンのまげ木工家具を受け継いだ地、婚礼家具として根づいた地、現代仏壇の生誕の地として多くの伝統を受け継いでいる。

民藝のプロデューサー吉田樟也が取り組み異業種、異素材によるトータルコーディネート的生活用品を生み出したように、これからは民藝の概念をデザインの概念に置き換え、新感覚での生活用品が「トトリデザイン」として登場となる。今回の展示は白岡彪氏のデザインによる椅子と氏が持っている世界の有名デザイナーのヴィンテージ椅子のコレクション展時となった。「使いやすく美しく良いものを」をモットーに新しい木工家具を提案している白岡彪氏に展示会場で講演もして頂いた。

成果

ギャラリーあんどうの協力のもと盛りだくさんの内容になった。市内のギャラリーでのあまり見られない内容の展示となったため、普段芸術文化センターの事業に来ておられない人もたくさん入場して、椅子に座ったり、デザインの図面を眺めたりして、身近にデザインと触れることができた。



開催期日：展示 H21.1.21～26 講演 H21.1.25 /会場：ギャラリーあんどう（鳥取市）

財源：平成20年度地域貢献事業／協賛：ギャラリーあんどう・株式会社 彪デザイン

参加者数：200名





事業内容

地域学部の授業「ミュージカル

上演法」で制作したミュージカルを、地域の

幼稚園児、特別支援学校生徒、保護者等を主な対象として三回の公演を行った。第一回目は白兔養護学校訪問学級への出前公演、第2回目と第3回目は、わらべ館「いべんとホール」で鳥取大学附属幼稚園、附属養護学校の生徒やその保護者を対象とし、第3回目には一般の方にも入場していただいた。この方式はこの数年で定着した。なお、例年は鳥取県民文化会館の小ホールでの公演であるが本年は小ホールが改修のため使用できず、わらべ館での公演となった。

例年に比較するとステージなどが狭いが、小規模なだけに、アットホームな「わらべ館」の良さも感じられた。



上演

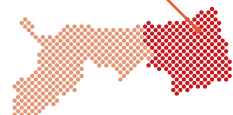
新倉 健
佐分利 育代
西岡 千秋

開催期日／会場：第1回 H21.2.20／白兔養護学校訪問学級 第2・3回 H21.2.24／わらべ館「いべんとホール」

財源：鳥取大学地域学部 ごうぎん文化振興財団

主催：鳥取大学地域学部附属芸術文化センター 助成：ごうぎん文化振興財団

参加者数：約250名（延べ人数）



上演

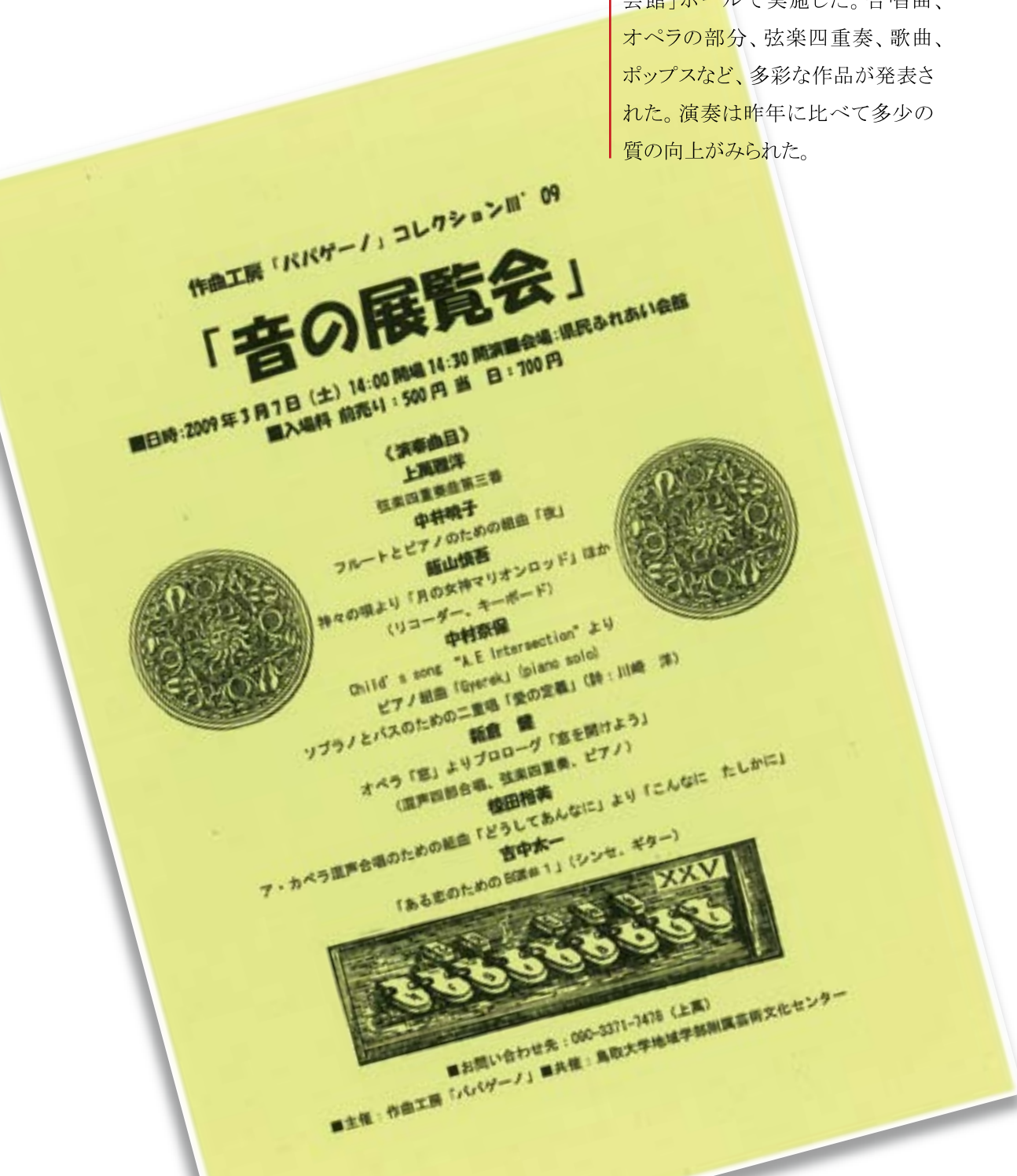
制作・創作

新倉

健

事業内容

鳥取県で作曲をしている人々が自分たちの作品を持ち寄り、多くの人に作品を聴いてもらい音楽の輪を広めていこうという、作品発表のコンサートの三回目。芸術文化センターのアートプラザが改修のため使用できなかったため、鳥取市内の鳥取県立生涯学習センター「県民ふれあい会館」ホールで実施した。合唱曲、オペラの部分、弦楽四重奏、歌曲、ポップスなど、多彩な作品が発表された。演奏は昨年に比べて多少の質の向上がみられた。



開催期日: H21.3.7 / 会場: 県民ふれあい会館

財源: 鳥取大学地域貢献支援事業 / 主催: 作曲工房「パパゲーノ」 共催: 芸術文化センター

参加者数: 約100名